

個人競技種目における理想のリーダーシップとは

中上 琴恵 (競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)

指導教員 吉倉 秀和

キーワード：個人競技種目 リーダーシップ 陸上競技

1. 緒言

リーダーシップは集団メンバー個々の行動と集団活動に決定的な影響をあたえるものとして一般的に理解されている(村井・猪俣,2010)。スポーツ集団のより良い運営や育成のためには、チームリーダーであるキャプテンは重要である。しかし、リーダーシップに関する研究はコーチや監督の研究が中心であり、キャプテンのリーダーシップに関する研究は数少ない。そして個人競技種目のリーダーシップに関する研究もほとんどされていない。先行研究である村井・猪俣(2010)でも団体競技種目のみを調査対象としている。そこで本研究では(1)個人競技種目の選手が求める理想のリーダーシップ行動を明らかにすること、(2)先行研究の団体競技種目の選手が求める理想のリーダーシップ行動とどのような差があるのかを明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

【調査方法】質問紙によるアンケート調査

【調査対象】1) B大学の陸上競技部、柔道部、水泳部に所属する学生、2) 関西圏の大学の陸上競技部員(投擲種目)

【調査期間】1) 2011年9月1日～10月9日、
2) 2011年8月21～22日

【調査内容】調査対象者の個人属性(10項目)と、目標志向性・人間関係の維持発展・メンバーへの激励・競技知識・競技能力の5因子(39項目)から構成される。

【分析方法】SPSSを用いて、統計的な分析を行った。

3. 結果と考察

本研究では柔道部、水泳部においてはサンプル数が確保できなかったため、三者の統計的な比較は行なわなかった。しかし三者とも第1局面「目標志向性」が最も高い値を示し、第5局面「競技能力」が最も低い値を示した。第3局面「メンバーへの激励」も比較的高い値を示していることが分かった。このことから個人競技種目を行う選手が求める理想のリーダーシップ行動は競技に対する高い意識を持ち続け、部員の気持ちを高める心配りや声かけを行うことであると考えることができる。

先行研究である団体競技種目を行う選手の理想のリーダーシップ行動と本研究で明らかになった理想のリーダーシップ行動を統計的に比較することはできなかった。しかし両者とも「目標志向性」の局面で最も高い値を示し、「競技能力」の局面で最も低い値を示した。このことから団体競技種目を行う選手が求める理想のリーダーシップ行動と個人競技種目を行う選手が求める理想のリーダーシップ行動は同じであると推察できる。しかし、個人競技種目の選手は団体競技種目の選手に比べ求める理想のリーダーシップ行動の平均値が高いことから、個人競技種目を行う選手は団体競技種目よりも理想が高いと考えられる。